2004 年 9 月 3 日 発行
2026 年 3 月 26 日 改訂

1.化学品及び会社情報

化学品の名称	:	サスゾール F
品番	:	89, 89-031, 89-100, 89-400
会社名	:	白光株式会社
住所	:	大阪市浪速区塩草 2 丁目 4 番 5 号
担当部門	:	営業部
電話番号	:	06-6561-1574
FAX 番号	:	06-6568-0821
メールアドレス	:	cs@hakko.com
推奨用途	:	ステンレス用フラックス

2.危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

爆発物	:	分類できない
可燃性ガス	:	区分に該当しない（分類対象外）
エアゾール	:	区分に該当しない（分類対象外）
酸化性ガス	:	区分に該当しない（分類対象外）
高圧ガス	:	区分に該当しない（分類対象外）
引火性液体	:	分類できない
可燃性固体	:	区分に該当しない（分類対象外）
自己反応性化学品	:	分類できない
自然発火性液体	:	分類できない
自然発火性固体	:	区分に該当しない（分類対象外）
自己発熱性化学品	:	分類できない
水反応可燃性化学品	:	分類できない
酸化性液体	:	分類できない
酸化性固体	:	区分に該当しない（分類対象外）
有機過酸化物	:	分類できない
金属腐食性物質	:	分類できない
鈍性化爆発物	:	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	:	区分 4
急性毒性（経皮）	:	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	:	区分に該当しない（分類対象外）
急性毒性（吸入：蒸気）	:	分類できない

急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	:	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	:	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	:	区分 1
呼吸器感作性	:	区分 1
皮膚感作性	:	分類できない
生殖細胞変異原性	:	分類できない
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
生殖毒性・授乳影響	:	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	:	区分 1：呼吸器系
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	:	区分 2：呼吸器系・歯・全身毒性
誤えん有害性	:	

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）	:	区分 1
水生環境有害性 長期（慢性）	:	区分 1
オゾン層への有害性	:	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル :

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :
飲み込むと有害
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ
呼吸器系の障害
長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器系、歯、全身毒性の障害のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策 :
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置 :
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
直ちに医師に連絡すること。
特別な処置が必要である（4.応急処置を参照）。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

保管 : 直射日光の当たらない涼しい場所で保管すること。
施錠して保管すること。
廃棄 : 内容物／容器を都道府県の規則に従って廃棄すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物
化学名又は一般名 : フラックス
成分及び濃度又は濃度範囲

成分	含有量（wt%）	CAS 番号
塩化亜鉛	35-45	7646-85-7
塩化アンモニウム	<10	12125-02-9
塩化水素	<5	7647-01-0
界面活性剤	<5	社外秘
精製水	45-55	7732-18-5

4.応急措置

吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努めその後速やかに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合 : 石鹸で洗い、水で十分に洗い流す。
眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で１５分以上瞼の裏側を含めて洗眼した後、眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状 : 吸入した場合：蒸気とミストは肺、気道上部を刺激する。
皮膚に触れた場合：皮膚を刺激する。
眼に入った場合：粘膜を刺激する。
医師に対する特別注意事項 : 情報無し。

5.火災時の措置

適切な消火剤 : 粉末消火薬剤、砂
使ってはならない消火剤 : 水
火災時の特有の危険有害性 : 情報無し
特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防処置 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器や防護服（耐熱性）を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」参照）を着用する。
環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 飛散したものを掃き集め、空容器に回収する。
二次災害の防止策 : 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	:	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	:	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	:	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 眼、皮膚に付けないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
接触回避	:	「10.安全性及び反応性」を参照。
衛生対策	:	取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件	:	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い冷暗所で保管すること。
避けるべき保管条件	:	直射日光の当たらない涼しい場所で保管すること。
安全な容器包装材料	:	密閉式の破損しない容器を使用する。

8.ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会	:	最大許容濃度:5ppm　7.5mg/m^3（塩化水素）（2009 年版）
ACGIH 勧告値	:	TLV-STEL 2mmp（塩化水素）（2009 年版） TLV-TWA　1mg/m^3（塩化亜鉛：ヒューム）（2005 年版） TLV-STEL　2mg/m3（塩化亜鉛：ヒューム）（2005 年版）

設備対策	:	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。 密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用しなければ取扱ってはならない。 気中濃度を推奨された管理濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。

保護具

呼吸用保護具	:	防護マスク
手の保護具	:	適切な保護手袋を着用すること。 ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。ネオプレンが推奨される。 飛沫を浴びる可能性のある時は、全身の化学用保護衣(耐酸スーツ等)を着用する。
眼、顔面の保護具	:	適切な眼の保護具を着用すること。 化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用すること。 安全眼鏡を着用すること。 撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	:	適切な顔面用の保護具を着用すること。 一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。

9.物理的及び科学的性質

物理状態	:	液状
色	:	無色～黄白色
臭い	:	特異臭
融点・凝固点	:	0℃以下
沸点又は初留点及び沸点範囲	:	100℃以上
可燃性	:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	:	データなし
引火点	:	データなし
自然発火点	:	データなし
分解温度	:	データなし
pH	:	1 以下
動粘性率	:	データなし
溶解度	:	データなし
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び／又は相対密度	:	1.3-1.5
相対ガス密度	:	データなし
粒子特性	:	データなし

10.安定性及び反応性

反応性	:	水溶液は強酸であり塩基と激しく反応する。
化学的安定性	:	空気中で潮解する。
危険有害反応可能性	:	データなし
避けるべき条件	:	熱源、空気、水
混触危険物質	:	塩基、酸化剤、金属酸化物、繊維素を溶解する。
危険有害な分解生成物	:	加熱すると分解し、有毒なヒューム(塩化水素、酸化亜鉛)を生じる。

11.有害性情報

急性毒性（経口）	:	H302 飲み込むと有害
急性毒性（経皮）	:	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	:	GHS 定義による気体ではない
急性毒性（吸入：蒸気）	:	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	:	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	:	H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	:	H318 重篤な眼の損傷
呼吸器感作性	:	H334 吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ
皮膚感作性	:	分類できない

生殖細胞変異原性	:	分類できない
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
生殖毒性・授乳影響	:	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	:	H370 呼吸器系の障害
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	:	H373 長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器系，歯，全身毒性の障害のおそれ
誤えん有害性	:	分類できない

12.環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）	:	H400 水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性 長期（慢性）	:	H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
残留性・分解性	:	データ不足のため分類できない
生体蓄積性	:	データ不足のため分類できない
土壌中の移動性	:	データ不足のため分類できない
オゾン層への有害性	:	データ不足のため分類できない

13.廃棄上の注意

残余廃棄物	:	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器・包装	:	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14.輸送上の注意

国際規制

国連番号	:	3264
品名	:	その他の腐食性物質(無機物)(液体)(酸性のもの)(他に品名が明示されているものを除く。)
国連分類	:	8 (腐食性物質)
容器等級	:	Ⅲ
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	:	輸送に際しては、直接日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。 他の危険物のそばに積載しない。
国内規制	:	15.適用法令を参照。

15.適用法令

労働安全衛生法	:	【ラベル表示・SDS 交付義務対象物質】 塩化水素、塩化亜鉛、塩化アンモニウム 【皮膚刺激性有害物質】 塩化亜鉛、塩化水素 【特化則 第 3 類物質】 塩化水素	
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	:	第 1 種指定化学物質	亜鉛の水溶性化合物(塩化亜鉛)
毒物及び劇物取締法	:	非該当	
労働基準法	:	第 75 条第 2 項	疾病化学物質
船舶安全法	:	危規則第 2、3 条	腐食性物質
航空法	:	施行規則第 194 条	腐食性物質

16.その他の情報

出典　製造業者の SDS。

本データは現時点で入手できる情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。記載内容は通常の使用状態におけるものであり、危険有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、使用におかれましては、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。

改訂履歴

改訂日	内容
2004 年 9 月 3 日	初版発行。
2010 年 4 月 1 日	組織変更による部署名変更。
2010 年 12 月 2 日	MSDS フォーム変更。
2012 年 6 月 15 日	PRTR 法の表記を変更。
2015 年 11 月 26 日	SDS へ改訂。
2016 年 1 月 6 日	CAS No.の訂正。
2022 年 6 月 2 日	フォーマット変更。
2023 年 10 月 4 日	2021 年 10 月 20 日公布　2023 年 4 月 1 日施行　化管法政令改正に伴う改定。
2023 年 12 月 1 日	ピクトグラムの修正、適用法令追加、フォーマット変更。
2024 年 9 月 18 日	15.適用法令追加。
2026 年 3 月 26 日	労働安全衛生法：令和 8 年・令和 9 年対応済み。